

# 地球温暖化の現状と苫小牧CCS実証試験について

2022年10月5日（水）10:10~11:40

松蔭大学 ステーションキャンパス101

Carbon dioxide Capture and Storage

## 未来につなぐCCS

—— 国内での実用化に向けて ——



画像提供：日本CCS調査(株)

**CCSとは：**二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の回収、貯留を意味する。

主催：松蔭大学

後援：厚木市

協力：日本CCS調査株式会社

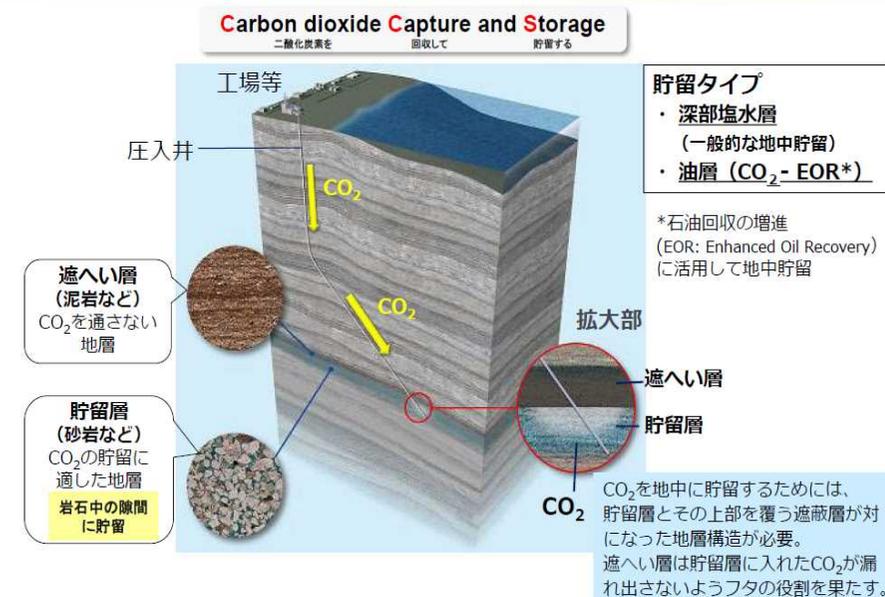
【お問い合わせ】松蔭大学 仲伯維研究室

TEL：046-247-1511（仲）

Eメール：birdyzh@shoin-u.ac.jp

### CCSの仕組み

5



令和4年度あつぎ市環境教育特別講座：

SDGs：地球温暖化と環境保全の目標

## 地球温暖化の現状と苫小牧CCS実証試験について

趣旨：

厚木市は、脱炭素社会を見据えた取組みとして、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「厚木市ゼロカーボンシティ」を表明した。その上で、2050年までの中間目標を定め、それを達成するための道筋を示すため、厚木市カーボンニュートラルロードマップを策定中である。

市は環境教育・環境学習推進の重点を、「協力団体等と連携し、学習講座や体験学習等を開催し、環境に係る意識の啓発と、自ら率先して行動できる人材の育成を図る（第5次厚木市環境基本計画より）」としている。

CCS（Carbon Dioxide Capture and Storage）は二酸化炭素の回収、貯留を意味する。日本においては、「日本CCS調査株式会社」が国や公的機関からの受託事業として、北海道苫小牧市においてCCS大規模実証試験等の事業を展開している。2012年4月に実証試験を開始し、2019年11月22日には二酸化炭素海底下圧入30万トンを達成できた。

松蔭大学では、2015年より、SDGsを教養教育に取り入れた。経営文化学部、コミュニケーション文化学部、観光メディア文化学部、看護学部の各学部がそれぞれの分野でSDGsへの貢献を目指している。

今回の講演会は、教育機関（松蔭大学）＋企業（日本CCS調査会社）＋行政（厚木市）の環境教育トライパータイト体制により実現できた。日本CCS調査会社より講師をお迎えし、松蔭大学の学生に加え、市民の皆さまにも聴講いただける。CCSについて知る良い機会となることを願っている。

## 参加手続きのご案内

- 1、本公開講義は松蔭大学の授業であると同時に、厚木市市民にも公開します。参加費は無料です。
- 2、必ず、事前の参加連絡をお願いします。なお、ウェブ会議システムzoomを利用したオンライン開催となりますので、ご了承ください。
- 3、参加者100名、先着順です。
- 4、事前参加連絡先：birdyzh@shoin-u.ac.jp  
担当者：仲
- 5、今後、参加者にはメールで確認返信及びzoomのご案内をお送りします。